

Y16b 大学生の銀河に対する認識の一例と国立天文台 4D2U プロジェクト映像による解決案

倉山智春 (帝京科学大)

帝京科学大学の一般教養科目の 1 つとして、2013 年度から天文学に関する講義「宇宙と天文学」を実施している。その初回の講義では、天文学が主に電磁波観測という受動的な事実をもとに構成されていることを説明した上で、次のような質問をしている。

「太陽を作る」のような実験は、通常実行できません。しかし、もしあなたが魔法使いでどんな実験でもできるとしたら、あなたはどんな実験をしてみたいですか。

初年度の 2013 年度は天文学といってもどうしても地球や生命に関する回答が多く (2013 年は 168 件中 35 件)、銀河に関する回答はなかった。中学校までの教育課程で銀河に関する取り扱いがないことも原因の 1 つである可能性がある。

そこで 2014 年度にはこの質問をする前に国立天文台 4D2U プロジェクトのホームページにある動画「コズミック・ビュー」(地球から太陽系、恒星系、銀河系、宇宙の大規模構造へとどんどん縮尺を変える動画) を見せたところ、地球や月に関する内容が減少 (168 件中 45 件から 208 件中 40 件) し、宇宙全体・銀河に関する内容が増加した (168 件中 30 件から 208 件中 46 件)。「見たことはあるが聞かれると答えられない」大学生の天文学に対する意識の一端が垣間見える。